

けやき倶楽部歴史グループ分科会 8 月度活動報告

|            |  |
|------------|--|
| 日 時        | 2020 年 8 月 19 日 (水) 10 : 00~11:30  |
| 場 所        | オンライン分科会の試行  |
| 参加者<br>氏 名 | 11 名 (オンライン)   |
| 次 回 予 定    | <p>1. オンライン分科会の試行を実施</p> <p>(1) テキスト—飯倉章『第一次世界大戦史』—これまでの学習のレビュー<br/>・テキストに入る苗に、「第一次世界大戦前の欧州史」、「第一次世界大戦の概要」、「帝国主義の世界支配」など第一次世界大戦前の欧州、バルカン情勢の知識を得た。テキストは、7月危機から大戦勃発までの皇帝政治家軍人などの動き、そして1917年アメリカ来りてロシア去るまでの学習を確認した。</p> <p>(2) 第一次世界大戦勃発要因をテキストを中心にあらためて検討</p> <p>1) 「帝国主義の世界支配」渡辺啓子 2019年7月16日に発表済み<br/>帝国主義とは19世紀末に人々が直面した世界分割とそれをめぐる国際対立の激化。第一次世界大戦勃発の要因は世界的規模で繰り広げられた帝国主義の対立。</p> <p>2) 「平和のための14か条とパリ講和会議」結城恒夫<br/>戦争は外交で決着できなかった国益の衝突。しかし民主議会制の下での英、仏では参戦理由を取って付けた様な「正義のため」「民主主義のため」などと世論の支持を求めた。19世紀までの英は「パクス・ブリタニカ」の最盛期、世界の主導権を握り植民地を張り巡らせ、アジア、アフリカの有色人種を隷属させ利益を吸い続けた。それをそっくりそのまま「パクス・アメリカナ」として実現する事が米国の真の狙いと見えて来る。</p> <p>3) 「皇帝政治家軍人は何を考え以下に動いたか」竹田勇吉<br/>第一次世界大戦勃発の要因の第一は、帝国主義、「サライエヴオでの殺害は、それだけでは何ももたらさなかった。この事件の利用の仕方が諸国民に戦争をもたらした。要因の第二は：絶対君主制（皇帝・貴族など）権威に頼った政策</p> <p>(3) 質疑</p> <p>1) なぜ独・墺・土：会議に招待されず一方的に過酷な講和条件を押し付けられたか<br/>2) パクスブリタニカをパクスアメリカナとして実現するのが米国の狙いか<br/>3) 第一次世界大戦勃発の要因として帝国主義は理解できるが君主政は納得できない<br/>4) 領土の争奪争いに加え、経済面が主たる覇権争いが始まったのでは<br/>5) 兵士と市民2000万人の生命を犠牲にした戦争がなぜ可能だったか<br/>6) 第一次世界大戦は1914年勃発、我々の世代とはたった30年の違い、身近な課題。</p> <p>2. 今後の予定<br/>次回より分科会例会はオンラインで開催です。</p> <p>次回のテーマは「第5章1918年ドイツの賭けと時の運」小林伸郎 資料配布済み<br/>と「第一次世界大戦の近現代史上の位置づけ」を考えています。<br/>予定日時は 次回10月13日(第2火曜日)10:00-11:30</p> |
|            |  |